

第1表 昭和63年度 関係委加盟状況 (校、%)

県名	設置校	加盟校	加盟率	前年加盟率
茨城	228	141	61.8	61.2
栃木	172	133	77.3	77.2
群馬	182	53	29.1	30.3
埼玉	411	352	85.6	85.7
千葉	362	150	41.4	40.3
5県	1,355	829	61.2	60.8

第2表 修学旅行の期日(出発日) (校)

期日	63年度		62年度		61年度	
	加盟校	協力校	加盟校	協力校	加盟校	協力校
2年時	0	22	0	10	0	10
3年時	4月	142	1	99	4	89
	5月	301	14	322	2	299
	6月	331	21	316	15	314
	7月	55	0	82	0	103
実施せず	0	1	0	1	0	0
合計	829	59	819	32	805	39

第3表 昭和63年度 関係委加盟状況 (校、人、%)

学校・人数	学校数		人数	
	割付	実績	割付	実績
茨城	138	141	33,229	33,150
	132	133	28,759	28,492
	52	53	6,115	6,253
	350	352	104,346	104,329
	146	150	45,171	45,408
栃木	A	306	310	93,594
	B	379	383	83,987
	C	73	75	23,280
	計	758	768	200,861
群馬	60	61	16,759	16,755
	60	61	16,759	16,755
総計	818	829	217,620	217,632
前年度	816	819	218,403	216,343

63年度関係委修学旅行実施報告  
参加人数は計画通り  
888校の実態を取りまとめ

第2表の通りで、当然ながら加盟校では、ローテーションによる割付なので、学校の希望する日は限らない。

三 宿泊数と実施学年  
宿泊数はすべて二泊三日であった。実施学年は加盟校では三年時で、協力校では37%が二年時に行われている。この傾向は若干増加している。

四 参加人数と学校数  
第3表と第4表に、県別・コース別参加人数と学校数、参加者の内訳を掲げた。前年度より学校数と生徒数は若干増加しているが、生徒数は本年度がピークであった。

五 方面別には、関西が学校数で93%、生徒数で92%である。東北方面は減少している。

六 参加人数中、教師一人当り引率生徒数が平均二〇・四人で、若干減少した。引率教師の数は、旅行先の見学方法や送迎の方法でかなりの差がある。校長としては生徒十五人に一人程度の教員数を望んでいるが、出張旅費、留守の学校の授業調整等、解決しなければならぬ問題が山積している。

第4表 昭和63年度 県別参加人数と教師一人当り引率生徒数 (人)

県名	人数	参加人数		教師一人当り引率生徒数	
		生徒	教職員	63年	62年
茨城	31,451	1,644	55	19.1	19.5
栃木	26,978	1,373	141	19.6	19.7
群馬	5,826	381	46	15.3	16.0
埼玉	99,420	4,628	281	21.5	21.3
千葉	43,159	2,092	155	20.6	20.9
5県	206,834	10,118	678	20.4	
前年度	204,823	9,996	649	20.5	

不参加の理由を大別すると、病気がけが等が三分の二を占めている。本人の事情によるものが約20%、学校の事情(対外試合等)が10%で、やや増加しつつある。

七 修学旅行費  
一人当りの修学旅行費は第6表の通りで、前年度より1%増加している。方面別では、関西、東北ともほぼ同額であるが、今年度は東北の値が急上昇している。これは、東北修学旅行参加校が比較的低額である埼玉県で減少し、代りにやや高額の千葉県で増加したためと思われる。

第5表 県別不参加生徒数と理由の内訳、不参加率

県名	不参加人数(人)	不参加の理由(%)				不参加率(%)		
		病気・けが	本人事情	家庭事情	学校事情	63年度	62年度	61年度
茨城	388	79.5	16.7	3.5	0.3	1.16	1.11	1.20
栃木	271	75.9	19.8	2.9	1.4	0.94	1.00	1.00
群馬	53	71.4	23.8	4.8	0.0	0.84	0.51	0.81
埼玉	1,144	56.7	19.0	5.9	18.4	1.08	1.16	1.29
千葉	528	69.6	22.0	2.9	5.5	1.15	1.23	1.03
5県	2,384	65.6	19.5	4.5	10.4	1.08	1.13	1.14
前年度	2,333	74.8	17.0	3.5	4.7			

第6表 昭和63年度 県別・方面別一人当り修学旅行費の平均 (円、%)

県・方面	旅行費	平均	前年度平均	前年度差	増減率	最低値		最高値	
						63年度	62年度	63年度	62年度
茨城	47,163	46,289	874	1.89	39,424	54,960			
	46,909	46,591	318	0.68	35,660	58,795			
	44,732	44,413	319	0.72	39,370	52,000			
	41,468	41,129	339	0.82	34,000	48,596			
	46,406	45,841	565	1.23	36,800	53,271			
関東	44,279	44,025	254	0.58	34,000	58,795			
	46,076	42,914	3,162	7.37	36,741	53,200			
5県	44,411	43,948	463	1.05	34,000	58,795			
前年度	43,948	42,712	1,236	2.89	34,414	60,221			



八 小遣のきまりと額  
小遣とおやつ代について、各県とも修学旅行の基準に示されていない。したがってほとんどの学校では、独自の方法を定めているようである。

市町村で小遣の金額を定めていると思われるのは、16市、4町、2村で5.7%である。茨城県が特によく多い。

第7表のように、小遣について「きまりあり」と答えた学校は97%で、「きまりなし」は約2%である。

小遣の上限の平均値は、栃木県が最高の一、八七六円で、最低の千葉県は、三〇九円の1.6倍である。各県とも前年度より増加、全体では3.7%増額した。

金額については一般に、市部より町部が、大都市より農村部が高額である。大規模校より小規模校が高額である。

九 おやつ代について「きまりあり」と答えた学校は、約半数の48%で、前年度より3%多くなった。

このように、「きまり」が多くなることは、それだけ計画が綿密になったと喜ぶべきか、しめつけが厳しくなったと悲しむべきか、判断に迷うことが多い。

十 なら・シルクロード博の見学  
なら・シルクロード博を見学した学校は、全体の46%で意外に低調であった。奈良へ行きながら、見学しなかった学校が49%である。旅行日が開催前の学校もあった。

第7表 昭和63年度 県別小遣とおやつ代のきまり (%)

県名	小遣		おやつ代	
	きまりあり	きまりなし	きまりあり	きまりなし
茨城	96.5	2.8	0.7	45.4
栃木	96.9	0.8	2.3	30.8
群馬	98.1	0.0	1.9	28.3
埼玉	98.2	0.9	0.9	55.7
千葉	93.4	3.3	3.3	56.0
5県	96.8	1.6	1.6	48.2
前年度	97.9	2.0	0.1	45.7

研究発表会の態勢を決定 群馬県修学旅行委員会(神保光委員長・利根郡新治村立新治中学校校長)は、三月一日午後、渋川市立渋川中学校(登坂麻二郎校長)で総会を開き、十一月十七日前橋市で開催予定の修学旅行研究発表会に関する打合せを行った。

会には高橋晴人副委員長(前橋市立第一中学校校長)、神保委員長以下関係加盟校の二十数名の校長が出席し、全協協会の系修学旅行部長が参加した。

最大の課題である研究発表会は、過去四回の発表会で未発表の地区に依頼することに、関係委員会を含めて十名からなる推進委員会を組織

紙面の都合で要点のみの発表となったが、今後の修学旅行の改善充実に向けて期待したい。

十一 あとがき  
準備を進めることを決定した。

関係地区公立中学校修学旅行委員会の埼玉OB会が、三月三日埼玉県大宮市のソニックシティビルで開催された。高橋敏元連任委員長および澤田克郎副委員長らの提唱により、埼玉県を中心に元委員二十数名が参加し、現役からは成石昌成会長、山口明連委員長も参加し、ツアーディレクター深沢泰子氏の「海外旅行の経験談を聞いた後、今後も関係委の発展を通じて修学旅行の改善向上に協力することを申し合せた。

第8表 昭和63年度 県別小遣とおやつ代の上限の平均 (円)

県名	小遣		おやつ代	
	平均	前年差	平均	前年差
茨城	9,257	386	1,057	223
栃木	11,876	184	920	-199
群馬	10,317	371	667	-437
埼玉	7,493	434	894	49
千葉	7,309	132	1,026	-40
5県	8,648	305	943	24
前年度	8,343	242	919	-174

KANSAI KISEN

大阪・神戸 直行便 別府さんふらわあ 12,000円

大阪南港 19.00発 神戸中突堤 6.50着 別府 8.00着

信託の船旅 関西汽船

営業本部営業課 大阪市北区梅田1-1 ☎(06)344-7031  
東京支社 東京都中央区八重洲1-4-14 ☎(03)274-4273  
及び各支店、営業所、旅行代理店へ

修学旅行に 貸切専用外航純客船 さんふらわあ7も ご利用ください。

座禅体験で "心、リフレッシュ!!"

清潔、安全、快適、安心のお宿

本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

〈国際観光旅館〉 比叡山 延暦寺会館

TEL 0775-78-0047・0554  
TEL EX 5464-917  
FAX 0775-79-5053

育てる心は、みんな同じ。

●営業受付時間  
9:00~17:00 (3月16日~11月15日)  
9:30~16:00 (11月16日~3月15日)

●修学旅行料金 高校生 1,000円  
中学生 700円、小学生 600円  
ガイドラジオ バス1台につき1,000円

別府あじむ草原

アフリカンサファリ

〒872-07 大分県宇佐郡安心院町大字南畑 ☎(09784) 8-2331代

楽しい修学旅行を、より安心出来るものに

「国内旅行傷害保険」修学旅行用をおすすめします。

TOKIO MARINE

東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-212-6211(代表)

# 春の教職員研修旅行好調

## 840名で実施へ

財団法人全国修学旅行研究協会の教育企画研修主催による春季教職員研修旅行は、約一月半にわたる参加者募集期間を終り、三月二十六日から実施に入る。

今季の参加者総数は、精選

された十四コースに八百四十名、昨年と並ぶ好成績で、これを二十四団に編成して実施される。

参加人数から見た人気コースのベストスリーは「邪馬台国への道」(志岐・対馬) (百六十名)、「国東半島」(臼杵の石造文化と水郷柳川) (百二十六名)、「陽春の四国」(西土佐) (百二十六名)と続いた。

都・土佐中村、大洲、内子など、一般の観光旅行にはない特異な見学地によるコースの魅力から考えられる。

これらのコースに次いで、「近江の飛鳥」(飛鳥・磯部)は、もうひとつの飛鳥といわれる地域への興味・美濃・瀬戸の古蹟は、瀬戸物として総称される庶民性と、秘かなるブームといわれる焼物探訪の時流への適合、沖繩・秘境西表と石垣、竹富、宮古は石垣新空港建設とサンゴ礁の保護をめぐって話題となっており、南西諸島への関心、本土では見られぬ自然の雄偉な大自然への強い憧れから人気コースとなっている。

「研修旅行実施本部」を設置し、事務局を挙げて実施の万事務期すとしていた。

なお、横浜博覧会は三月二十五日から十月一日まで開催、ベ

イプリッジは今秋開通の予定である。

常磐線に最新鋭特急スーパーひたち登場

JR東日本が在来線唯一の特急電車「スーパーひたち」が完成、三月二日発表式が行われた。

上野駅中央広場のエレベーターでは同社主任正二社長が最新鋭車両の概要を紹介し、引き続き試乗会に移り、ミュージックホーンを鳴らしながら梅花満開のときわ路を快走し

た。

これまでの特急電車のイメージを変えた広い窓の白い車体、旅客機並みのシートと読書灯、移動可能なコート掛、客室下上の車内情報案内装置と時刻表示、カード式公衆電話、車内FM放送、荷物置き場、便座シート自動交換のトイレ等々。グリーン車は横二十一列の席にヘッドホン付禁煙席は透明板で仕切られている。

三月十一日のダイヤ改正から常磐線の上野(平)一部相馬までを在来線の最高130km/hで運行される。

同社須田寛社長のおいさつの中に、京都地域への一層の旅客誘致、観光振興を図るため、東海道新幹線を運行する同社が京都と関東を結ぶベルトとなつて全力を挙げることを主眼に、関係者が一堂に会して情報・意見の交換を行った。

車内電話が即時式に東海道・山陽新幹線交換台経由で沿線地域にみ通話可能であった東海道・山陽新幹線の車内電話が、ダイヤ改正より一足早く三月九日からカード専用即時式となり、通話範囲も東北・上越新幹線同様全国に拡大された。

車内の設置台数も増加、ピエフェ営業のない修学旅行専用列車からも、テレホンカードがあれば全国に電話かけられる。ただし、列車へかけられる場合は従来どおりNTT交換を経由する。

# 古都—その点・線・面—(9)

## 三十三間堂境界(下)

三十三間堂の北向いの角(国立博物館の西南角)に道標がある。右 豊国廟参道口へは上りの「丁」左 豊国神社へは下りの「丁」とある。

東山七条界隈の三つめの顔は、豊臣家ゆかりのものである。三十三間堂南大門と太閤堀と呼ばれる築地塙も桃山時代の遺構を伝える。また東側の養源院は国宝の依屋家達

三十三間堂が焼けたのは、阿比のころ。アラビヤの文字が、コリントの柱に、うしろの正面に……

京のわらべ唄である。秀吉の創った大仏は高さ十九メートルという巨大な物だったが、江戸時代には縮小された。寛永通宝となった。また、大仏殿も地震や雷火などによって何度か破壊された。江戸末期には、旧大仏の十分の一の大きさで再建された。昭和四十八年の大火でこれも焼失した。

石垣とともに有名な銅鐘は今も残る。大阪冬・夏の陣、ひいては豊臣家滅亡のきっかけとなった「国家安康、君臣豊楽」の鐘銘は、今は白ペンキで塗りつぶされた文字が浮かび、目につきやすい。

豊国神社は、江戸時代に取崩され、明治になって大仏殿跡の南半分に再興されたもの。本殿の正面に建つ唐門は、南禅寺金地院から移築された伏見城の遺構を伝えるものである。欄間や扉の彫刻など、桃山時代の絢爛豪華な

この耳塚は、戦乱下に被った朝鮮民衆の愛護を歴史の遺訓として、いまに伝えていくこの京都市の掲示がある。

博物館前を東にすると、豊國廟に達するのだが、その道は遠い。途中には、名園と長谷川等伯の楓絵(国宝)で有名な女坂から来る女性達の華やかな声と三十三間堂を出た修学旅行生の元気な姿が、新しい時代を象徴するようであった。

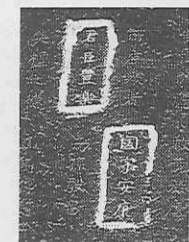
更にその上、新日吉神社を経て、今はクラブ活動の格好のトレーニングの場となっている五百六十五段の急な石段を登ると、豊國廟に至る。五輪塔、香炉、石灯籠等、秀吉を偲ぶにふさわしい大ぶりのものであろう。

時は流れ、世は移る。栄枯盛衰は世の常である。養源院や耳塚の血なまぐさい、人の世の争いを救うような手観音像、人の心に感動を与える博物館の芸術品の結晶。それらが混在する地域を一回にわたって歩いてみた。

豊國神社と耳塚の間は児童公園。子供達が無事に遊ぶ声を後にながら、修理中の博物館正門前を通り七条通に戻る。女坂から来る女性達の華やかな声と三十三間堂を出た修学旅行生の元気な姿が、新しい時代を象徴するようであった。



「国家安康、君臣豊楽」の鐘のペンキで塗りつぶされた文字



「国家安康、君臣豊楽」の鐘のペンキで塗りつぶされた文字

その間の道を東にすると、通称「女坂」と呼ばれ、幼稚園から大学まである京都女子学園がある。若々しい「女の園」である。

—修学旅行の楽しいお食事—

## 箱根彫刻の森美術館内 レストランコンポート

◇500名様迄、ご利用いただけます。

◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121 ☎0460(2)1141(代表)

## 首都東京を見て、何かを!

学校単位のご貸切りでご利用下さい

30年の経験を生かす 50旅館 8000名収容

# 本郷の旅館へ

本郷旅館協同組合

〒113 東京都文京区本郷4-36-3 TEL 03-813-9381

## 東京コマ旅行会館は 第8回優秀防火建築表彰で 建設大臣賞を受賞いたしました。

東京でのお泊りは 安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近に望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉 東京都港区六本木1丁目7番地 TEL (03)585-1046(代表)

### 東京 コマ旅行会館

# ●ハンディタイプ「トラベルメイト」の旅ガイド

1 北海道	11 東京	21 松本・上高地・乗鞍	31 伊勢・志摩
2 札幌とその周辺	12 秩父・多摩・埼玉	22 蓼科・清里・八ヶ岳	32 南 紀
3 道東(阿寒・知床)	13 横浜・三浦半島	23 富士五湖・甲府	33 山 陰
4 道南(十勝・標榜・函館)	14 鎌倉・湘南	24 中部・高山	34 山 陽
5 東北	15 箱 根	25 名古屋・東海	35 四 国
6 青森・秋田・八幡平	16 伊 豆	26 北 陸	36 九 州
7 岩手・仙台・松島・蔵王	17 伊豆七島	27 近江・若狭	37 北九州(福岡・大分)
8 磐梯・会津・福島	18 千葉・房総	28 京 都	38 西九州(長崎・熊本)
9 日光・那須	19 軽井沢・伊香保	29 奈 良	39 南九州(宮崎・鹿児島)
10 新潟・佐渡	20 戸隠・志賀高原	30 大 阪・神戸	40 沖 縄

★お求めは全国の有名書店でどうぞ。 発行 近畿日本ツーリスト出版事業部

〒101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎03(257)0779/直通 FAX.03(258)3216